

第3回高性能多核種除去設備壁タスクフォーラス議事概要

日時：平成26年7月22日(火)10:00～12:00

場所：経済産業省 別館1階 105共用会議室

出席者：塚田毅志主査、山本徳洋委員、田尾博明委員、山本正弘委員、長谷川正巳委員、沼田守委員、東京電力、日立GEニュークリア・エナジー、東芝、江口対策官、糟谷対策監、吉田審議官、土井審議官、豊口企画官、水野調整官、菅野補佐

議事概要：

1. 田中主査の辞任に伴い、主査の選出を行い、塚田委員を新たな主査として選出。
2. 高性能多核種除去設備整備実証事業の進捗について、東京電力より説明。

【資料1】

<主なコメント>

- CsおよびSrの除去性能について塩分の影響は考慮されているのか。
→海水中の塩分の影響の考慮された、除去性能となっている。
- 高性能多核種除去設備の目的として、処理後の廃棄物の量を減らすことが重要。
今回のラボ試験結果から、どの程度まで廃棄物を減らせると考えているのか。
→ラボ試験結果から廃棄物の量を定量的に算出することは困難である。今後実施する検証試験にて廃棄物の量を確認していく。
- 吸着塔毎の、放射能濃度の減衰はどうか。
→今回のラボ試験では吸着塔毎の除去性能のデータは取得していない。ケース1と2で比較すると、より高濃度の水が通水される前半にCs/Sr吸着塔を持ってきたケースの方が、減衰率が高いという結果は得ている。
- 同種の吸着塔において各吸着塔の除去性能が把握できれば、吸着塔の数、配置の選定をする上での基準になるのではないかと。また、処理水の化学形態毎にフィルター、吸着材の配置を検討することもあり得るのではないかと。
- 塔構成については、今回提案のあった構成がもっとも良いという判断か。他によりよい塔構成があるのではないかと。
→可能性はあるが、現時点では今回提案の塔構成が最適と考えている。

- 塔構成の考え方としてRu除去のための吸着塔を増塔するのではなく、Sr等他の核種の除去性能向上に当てるという方針については了承。また、実証試験装置の塔構成についても、今回提案の方針で了承。

3. 多核種除去設備で確認されたスラリー透過事象に対する対応について東京電力より説明。【資料3】

<主なコメント>

- 既存の多核種除去設備で起こった事象と対策について整理した上で、高性能多核種除去設備に反映してほしい。
→適宜反映に努めている。
- 高性能多核種除去設備の整備実証事業で得られた知見を既存の多核種除去設備に反映することは可能か。
→可能である。例えば、Ru除去に使用している吸着材を既存の多核種除去設備に反映できないかを検討している。

以上